

報 道 資 料

令和7年11月 4日（火）
教 職 員 課
小中人事係
係長 若 狹 保
県立人事係
係長 井 上 雅 之
ダイヤル 0742-27-9846
（内線） 64861

令和7年度奈良県公立学校優秀教職員表彰について

県内の市町村教育委員会教育長及び県立学校長から推薦のあった「奈良県公立学校優秀教職員表彰候補者」について、外部委員7名で構成する「奈良県公立学校優秀教職員表彰選考委員会」での選考を経て、本年度下記のとおり5件の教職員を「奈良県公立学校優秀教職員」として決定し、教育長が表彰することとしました。

記

1 表彰の目的及び趣旨

この表彰は、教職員の意欲の高揚と、学校の活性化を図ることを目的として、職務に精励し、他の教職員の模範となる教育活動を実践している教職員及び教職員グループを対象として平成16年度から実施しています。また、県内の学校の活性化に資するため、表彰実践事例を県内の教育関係者に紹介するとともに広く公表しています。

令和2年度から、学校教育における教育実践等に顕著な成果を上げた教職員であって、さらに顕著な成果を上げることが見込まれる者を表彰する「若手教職員等奨励賞」を設けました。

本年度は、第22回目の表彰になります。

2 令和7年度表彰の概要

(1) 被表彰者数 …… 5件

(2) 被表彰者 …… 葛城市学校給食センター
奈良市立一条高等学校附属中学校 北側 真敬
生駒市立緑ヶ丘中学校 江上 寿哉
奈良県立山辺高等学校 巽 悠生

【若手教職員等奨励賞】

奈良県立十津川高等学校 大東 実里

(3) 表彰式 ……なし

3 具体的な表彰実践事例（代表3例）

(1) 学校給食を通じて食育について学び続ける学校給食センターの事例

毎月19日を「食育の日」とし、奈良県産や葛城市産の地場産物を取り入れた特別な献立に加え、ICTを活用した食育動画を企画・配信する取組を行っている。普段見ることのできない給食センターの調理風景を動画に収めたり、子どもたちが給食の現場を身近に感じられるような工夫を施したりすることで、子どもたちの食への興味・関心を飛躍的に高め、食育の定着に大きく貢献した。また、学校給食週間中に毎日配信した「給食作文動画」は、各学校の表現力を高めるとともに、食の喜びを分かち合う場を創出した取組である。特に、「食育の日」の動画は、献立の紹介や大量調理の様子なども盛り込まれた内容が配信され、子どもたちは目を輝かせて視聴している。食への興味喚起だけでなく、食に関わる人々への感謝の心を育む上で極めて有効な手段である。保護者にも学校給食への理解を深めてもらえるよう、各学校で給食試食会を開催しているほか、学校のホームページや市内広報誌を通じて、食育に関するコラムや食の大切さを呼びかけている。このような取組は、地元の食材への関心を高めるだけでなく、地産地消の推進に大きく貢献している。

(2) ArtsSTEM 教育の実現に向けて教科横断的で探究的な学びをめざした中学校の事例

「Arts STEM 教育（STEAM 教育）」の実現に向け、1人1台端末等の ICT 環境を活用し、教科横断的で探究的な学びを推進している。生成 AI の登場により、情報活用能力や探究的な学びの重要性が高まる中、ICT 活用は教育の基盤と捉えている。以下に主な実践を紹介する。

【実践】「三角比×micro:bit 建物の高さを測ろう！」（数学×技術）

中学3年生が、数学の「相似」単元で高校内容の三角比の基礎を学び、技術で扱うプログラミングと連携して、micro:bit で建物の高さを測定した。数学とプログラミングの融合により、実用性や学ぶ楽しさを実感するとともに、先取り学習が意欲向上に繋がった。

【実践】「エッシャーに挑戦～オリジナルの繰り返し模様を創ろう～」（数学×美術）

数学の対称性を活かした模様を制作し、校舎に展示。視覚的理解や創造的表現力が育まれ、達成感や自己肯定感の向上に繋がった。

【実践】「生成 AI 教習所～生成 AI との関わり方～」（道徳×総合）

教育版生成 AI を導入し、活用例や注意点などを学んだ。研修旅行の計画にも AI を活用し、情報モラル・リテラシーの育成に繋がった。

【実践】「私たちとプログラミング～メディアアートで表現しよう～」（数学×技術×総合）

プログラミングツール p5.js を用いてメディアアートを制作し、創造的表現に挑戦。中学2年生との発表会を通して学びの交流が促進された。

(3) 通信課程の開設にあたり教育セーフティーネットの構築についての高等学校の事例

奈良県では不登校等により高校卒業が困難な生徒が増加する中、生徒の多様なニーズに応える教育の構築が喫緊の課題となっていた。この状況を踏まえ、令和4年度末より、奈良県立山辺高等学校に ICT を全面的に活用した新しいタイプの通信制課程を開設する取組を担当した。従来、紙媒体が中心であった添削課題の配付・提出・解説といった学習プロセスを、Google Workspace や動画等を活用して完全に電子化。生徒専用ポータルサイト「MyPortal」を構築し、生徒が時間や場所に縛られずに学習を進められる環境を整備した。さらに、従来の通信制課程における週1回程度の面接指導（スクーリング）という枠組みを抜本的に見直し、登校頻度を大幅に減じることで、心身の負担から通学が困難な生徒でも卒業を目指せる教育課程を創出した。

本課程の開設により、生徒は各自のスマートフォンや PC から「MyPortal」にアクセスし、生活リズムや仕事の都合に合わせて、自身のペースで課題（PDF）や解説動画の視聴、解答提出（Google フォーム）を行えるようになった。これにより、従来では卒業が難しかった不登校等の生徒が、家庭での着実な学習を通じて単位を修得し、進級を果たしている。